

オブジェクト指向プログラミング実験

小嶋一生，吉岡昌雄

電気情報技術系

1 はじめに

本実験は情報電気電子工学科3年次の必修科目として行われている。オブジェクト指向ではJava言語やC言語を用いてJavaの基本からアプレット、X-Windowまでを学ぶ。ソフトウェア技術では6つのテーマの中から1つを選択してより高度なソフトウェア技術の理解を深める。本実験の支援を電気情報技術系の技術職員が行ったのでここに報告する。

2 内容

金曜3・4限に開講されており前期はオブジェクト指向プログラミングを後期はソフトウェア技術が行われる。プログラミング言語はJava言語、C言語を用いる。実験中は質問のある学生に対して指導を行う事でサポートを行った。また、計算機システムが昨年度末に更新されこれまで使用していたsun-Javaの他にOpen-JDKがインストールされた。そのため4月の実験開始に先立ちjavaのバージョンを確認するなど実験に不具合が無いか確認を行った。他にもosがこれまでの32bitから64bitに変更になったのでX-Windowシステムでライブラリに影響が無いかテストを実施した。また実験の出席管理システムを構築しており、授業開始前、終了後に学生がメールを送信することで、出席一覧をWEB-SITEで確認できるようにしている。あわせて本システムを利用して、着席している場所も特定する事が可能である。また、実験用のWEB-SITEを公開しており実験に必要な資料などの更新を行った。

3 まとめ

システム更新に伴う予備実験では実験開始までスケジュールに余裕がない中、情報収集からテストまで実施できたので良かったと考える。ただ、実験中の指導については学生への対応をもう少しきめ細やかに行う必要があったと思う。次年度の課題としたい。また、出席システムは対応する技術職員が少なく特にソフトウェア技術の時は6つのテーマが並行して実施されているので有効な確認手段となっている。